



在宅の話

本当の安心を求めて...

平成29年3月22日

岩手西北医師会

高橋 邦尚



**いま、なぜ在宅、在宅と、国も滝沢市も
口を開けば騒ぐのか？**

**そもそも
在宅っていったい何なの？**



ご存知ですか？

- ①その時が来たら、安楽に世を去れる状態になっていると思いますか？**
- ②救急車を呼ぶということは、どういう事かわかっていきますか？**



① いまや高度長寿社会

**私の往診患者さんにも、過去に5人の100歳以上の方
(一人は2ヶ月手前で死亡)。**

うっかりすると100まで生きてしまう時代。

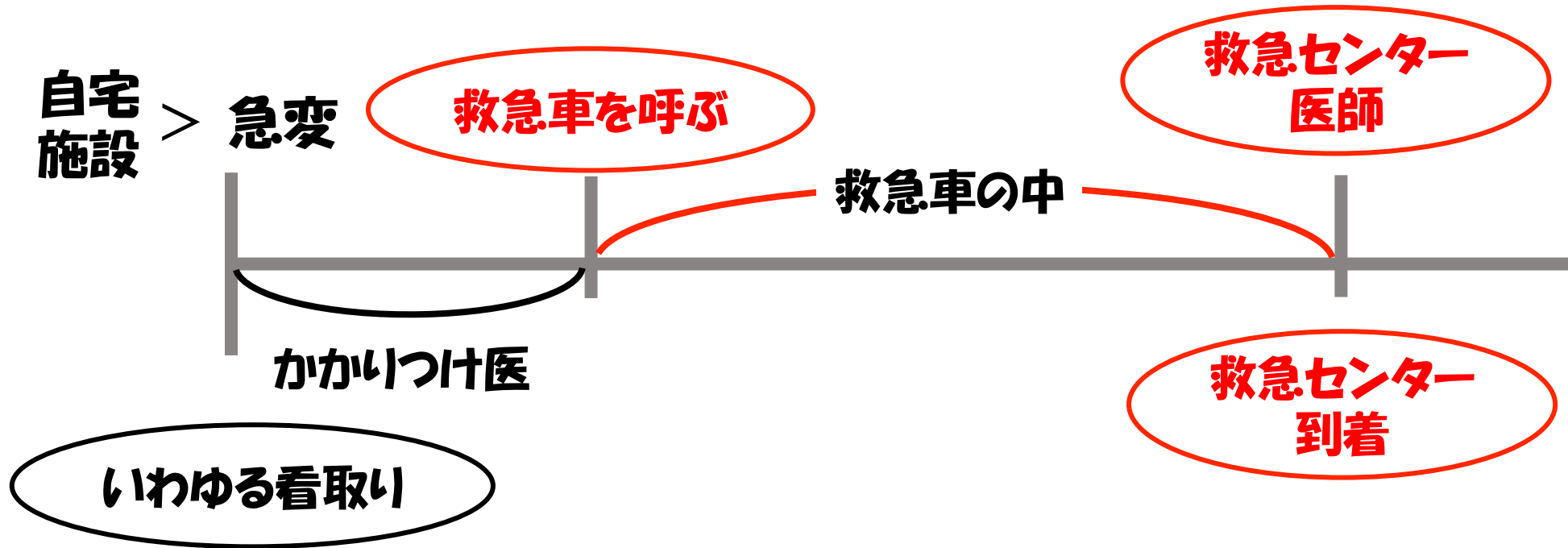
**一方で、ほとんどの方は亡くなるまでの10年間は、
寝たきり、施設、その他のサービスを受けています。**

→ 健康寿命はほぼ10年と、意外に短い。



② 救急車を呼ぶという事はどういう事か？

自宅でも施設でも、いわゆる急変となった時





救急車を呼ぶと

**100歳を越えていようが、
癌の末期の方であろうが、
患者さんが生きておられれば、
あらゆる救命処置を行います。**

既に亡くなっておられる場合

→ すぐに警察に連絡が行きます。

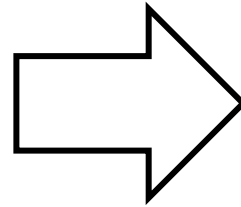


もっと詳しく

救急隊が駆けつけた時に
既に亡くなっている。

救急車の中で
亡くなってしまった。

救急センター主治医が
診た時に亡くなっていた。



警察による
死体検案

・
・

死亡診断書1枚では
済まないことに。

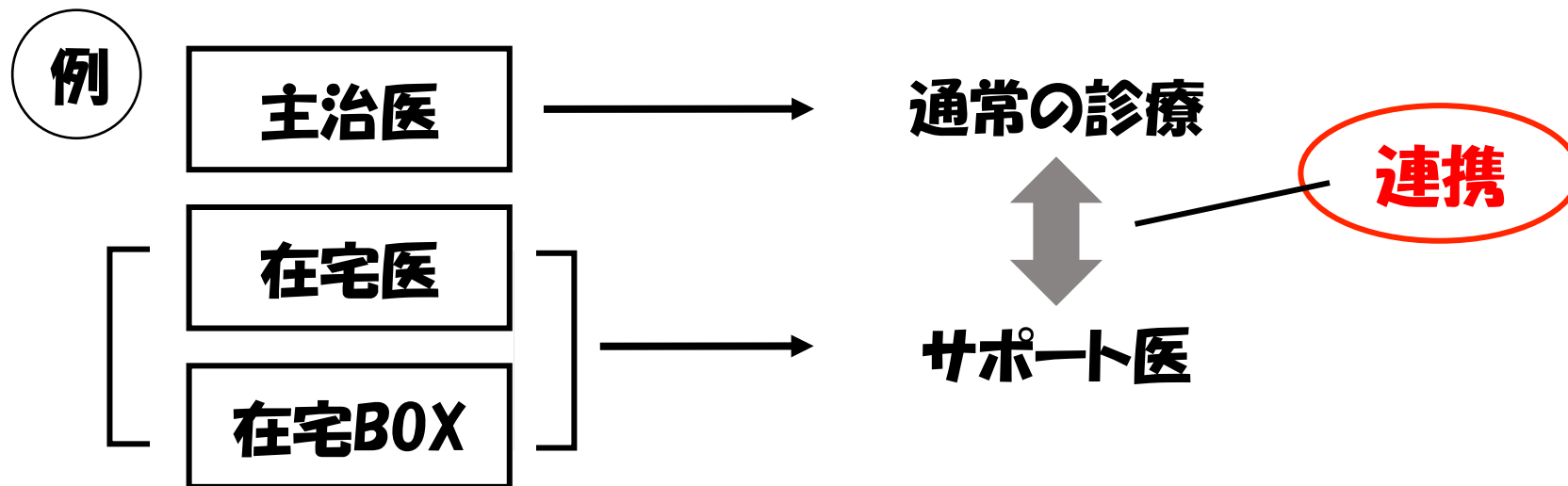


いまは、おちおち ゆっくり死ねない時代

→ どうするのか？

最も身近な対策

- ① かかりつけ医に、いざという時の相談をしておく事。
- ② 在宅BOXを通じて、かかりつけ医といざという時の対策を立てることができるかも。



いまの滝沢市では、これしか方法が無いように思う・・・



ま と め

油断すると100歳まで生きる、生かされてしまう。

日頃のかかりつけ医との話し合い、
いざという時の **在宅BOX** 連携システム。



岩手西北医師会と滝沢市の
医療連携事業

付け加え

元気な方が急に具合悪くなった時には、救急車を呼ぶことは問題ありません。

今日のお話は、癌の末期の方とか、かかりつけ医と家族との間で話し合いが済んでいる高齢者の方についての事です。





ご静聴ありがとうございました